

福知山市議会「蒼士会」 行政視察研修報告書

- 1 視察日程 令和6年11月21日（木）～11月22日（金）
- 2 視察先及び調査項目
 - （1）山形県天童市
子育て未来館【げんキッズ】 施設立案運営状況について
 - （2）山形県山形市
山形市南部児童遊戯施設【シェルターインクルーシブプレイス コパル】
施設立案運営状況について
- 3 参加委員
高橋正樹・藤本喜章・森下賢司・野田晋介
- 4 視察経費 総額438,000円（109,500円/1人あたり）
- 5 調査報告
別紙のとおり

視 察 日	令和6年11月21日(木)
視 察 先	山形県天童市 人口 60,356人 (令和6年8月末日現在) 市面積 113.02km ² 議員定数 22人
調査項目 施策・取組等	子育て支援センターを兼ねた子育て支援拠点施設「子育て未来館げんキッズ」の運営状況について
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	市民から要望の多い屋内子ども遊び場についての見識を深めることを目的に候補先を選定 子育て支援施設のプロトタイプとして、山形コパルとの比較対象の意味合いが大きい
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	■施設概要 敷地面積 10,473.03m² 建築面積 1,588.09m² / 延床面積 2,226.75m² 構 造 鉄骨造2階建て 開館時間 9:00～19:00 休 館 日 毎月第3水曜日(祝日の場合は翌日)および元日 利用料金 無料 ■財源内訳 (概算) 社会資本整備総合交付金(国庫) 5億7,500万円 起 債 8億円 一般財源 5,000万円 合 計 14億2,500万円 天童市子育て未来館「げんキッズ」は、2015年5月、天童市に誕生した児童遊戯施設。 施設は公募により東京ドームグループが指定管理者として管理・運営にあっている。令和6年度の指定管理委託料は約9,700万円。職員は常勤14名、アルバイト20名、各種講座講師16名の他、計50名(内10名は保育士資格保有)である。一時預かり(定員15人)も行っており、一時預かりルームが設置されている。(※1時間500円) 年齢区分ごとのゾーニングにより、遊べる区画が基本的に区分けされているが、入館状況によって臨機応変に行き来できるようである。飲食可能な「子育てカフェ」や子育て情報コーナー、読み聞かせコーナー、多目的交流エリアなど多彩な屋内配置である。また、屋外にも芝生緑地や親水水遊び空間がある。
考察・効果	天童市では、子育て支援日本一をめざす施策展開の中で、その中核施設となる JR 天童駅近くの子育て支援施設が手狭になる課題があった。また、近隣市にも室内型遊戯施設が相次いで開設され、市民からも雨天時や冬季に屋内での子どもの遊び場を求める意見があった。そうした背景の中で、平成21年度に新たな子育て支援施設の建設が第6次天童市総合計画の重点プロジェクトに位置付けられ、平成23年度に「天童市子育て支援施設整備基本構想」を策定し、建設に向けて始動した。 まず、学識経験者、民生児童委員、公民館長、PTA会長、小学校長、保育園長、婦人会長、育児サークル代表など13名からなる市民検討会議が設置され、4回の委員会を経てパブリックコメントを行い、市民意見が集約されている。

・ 政策提言への反映 ・ 本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題）	利用者は山形市をはじめとする市外からの来訪が多く、市外利用者比率は約70%。開館から10年目の令和6年12月で累計入場者数が200万人に達する見込みである。週末は館内の過密を防ぐために必要に応じて入場制限を行い、大型遊具付近にはスタッフを配置、年間を通じてさまざまな講座の開催、四季に応じて館内装飾を行うなど、来館者が安全に楽しく遊べる工夫がされていることが感じられた。一日当たり約600人の利用があり、どちらかというと夕方からの来訪者が多いということである。 どちらかというと、子どもたちが遊び、付き添う家族等がそれを見守るという形態のステレオタイプの運用に近い。
--	---

視 察 日	令和6年11月22日(金)
視 察 先	山形県山形市 人口 240,324人(令和6年8月1日現在) 市面積 381.58km ² 議員定数 33人
調査項目 施策・取組等	児童遊戯施設「シェルターインクルーシブプレイス コパル」の事業策定から現在までの経過全般について 特に計画立案から設計者選定、PFI手法、運営方法など
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	市民から要望の多い屋内子ども遊び場についての見識を深めることを目的に候補先を選定。 施設開館後、多数の利用者と視察者が訪れている。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	■施設概要 敷地面積 22,295.30m² 建築面積 3,334.81m² / 延床面積 3,175.90m² 構 造 鉄筋コンクリート造、鉄骨造(一部木造屋根) 開館時間 9:00～18:00 休 館 日 第2・4火曜日 利用料金 無料 利用時間 90分入れ替え制(利用人数制限 1時間当たり400名まで) ■総事業費 38億7,000万円(概 算) 内 訳 ・ 山形県住宅供給公社による立替施行 5億3,000万円 (市で債務負担を設定し、整備完了後10年割賦返済) ・ PFI事業契約による設計・建設 20億5,000万円 (市で債務負担を設定し、整備完了後15年割賦返済) ・ 国庫補助 次世代育成支援対策施設整備交付金 870万円 ・ 起債 社会福祉施設整備事業債(充当率80%) 690万円 ・ PFI事業規約による運営・維持管理 12億7,600万円 (年額8,500万円) ■発 端 シェルターインクルーシブプレイス コパル (山形市南部児童遊戯施設)は、2022年4月山形市に誕生した新たな児童遊戯施設。山形市には、雨天時や冬季間に子供たちが伸び伸びと遊べる施設が少なく、子育て中の保護者から屋内型の児童遊戯施設に対する要望が多数あった。 これらの要望を受けて、市内北部に児童遊戯施設「べにつこひろば」を整備した。この施設は年間18万人の利用者を想定していたが、平成26年12月からのオープン1年目で約30万人、2年目以降も25万人以上が来場し大いに活用されていたため混雑の解消が求められたこと、また、市全域における子育て支援機能をさらに充実させるため、市南部への設置が望まれていた。そこで、平成27年度に策定した「山形市発展計画」において、重点施設の一つである「子育てしやすい環境の整備」の主要事業として「市南部への児童遊戯施設整備事業」を位置付け、新たな子育て支援拠点として市南部に建設することになった。

	■整備手法 施設は2015年の山形市発展計画の一環として、市長の公約に基づいて設立された。 1. 山形県住宅供給公社と「山形市南部への児童遊戯施設整備事業に係る業務の立替施行に関する基本協定」及び「用地取得業務」「造成工事等業務」についての実施協定を締結し、用地取得から敷地造成までを一括して、公社の立替施行により実施。 2. 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）に基づき、設計・建設の後、市に所有権を移転した上で、運営・維持管理を実施するBTO方式により実施。事業者は総合評価による一般競争入札で選定。
考察・効果	施設は2022年4月18日にオープンし、現在47万人近くの来館者を迎えている。施設は山形市のPFI事業として、年間約8,500万円（15年）の運営費で民間企業と協力して運営している。 設計は、インクルーシブな理念に基づき、全ての人が利用しやすい空間を目指している。施設の特徴として、自然と一体化したデザイン、様々な居場所の創出、遊びを触発する空間設計、五感を大切にする工夫、多様な人々が一緒に遊べる仕掛けなどが挙げられている。また、日本初の車椅子専用ブランコなど、インクルーシブな遊具も設置されており、施設の構造は、鉄筋コンクリート造と木造を組み合わせたハイブリッド構造で、地元の木材を活用されている。 ■設計コンセプト【すべてが公園のような建築】 1. ランドスケープと一体となる佇まい 2. ひとつながりの空間の中に居場所をつくる 3. 遊びを触発する空間 4. 五感を大切にする空間 5. 障がいのあるなしに関わらず、一緒に遊べる仕掛けをつくる 年間目標来館者数は当初15万人であったが、昨年度は20万人を超えリピーターが多い。これまでに約1,800件の視察を受け入れており全国46都道府県から訪問がある。
・政策提言への反映 ・本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題）	山形県の山形市、天童市、東根市周辺には、冬場の天候による子どもたちの遊び場が確保できないこともあるのか、競い合うように児童遊戯施設が建設・運営されている。 児童遊戯施設といえば、天童市の「げんキッズ」や山形市の「べにっこひろば」などの遊具を設置した施設が児童施設の構成の典型的な計画パターンであったが、「山形コパル」は、特にそれまでの児童遊戯施設の概念を覆すものとなっており、児童と保護者がふれあいを通して過ごすことができるよう意図的に遊具の設置を制限している。こうした運用概念の転換は、別の用途施設の新設に際しても同様に言えることである。 設計者・施行者を単に入札額の多寡で選定するのではなく、能力と取り組む姿勢で選ぶことが、最終的に自治体のブランディングに大きく寄与することを再認識するとともに、既成概念に縛られない自由な発想により計画され建築された施設がいかにか人を呼び込める魅力を秘めているのかを再確認した。